

おたへ愛人

西郷南洲翁揮毫

ご挨拶

理事長 吉永龍暘
会長 吉永龍奏

会員の皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、当会のために格別の尽力を賜り心より御礼申し上げます。

年の初め一月末に、この世のつとめを果たし、前理事長・洲神が他界致しました。悲しみが癒えぬ間に、五月、南洲吟道会創立四十五周年記念吟道大会を執り行う事となり、会員の皆様をはじめ、学院の先生方にも多大なるお力添えを賜り、厚く御礼を申し上げます。

本年、当会の栄誉を顧みますれば三月、壮心大会において山田璽龍さんが『壮心大賞』受賞。五月、全国吟詠コンクール大会において菊田龍正さんが『文部科学大臣賞』『四冠吟士権』受賞。七月、壮心大会では内山龍陽さんが東京地区代表に選出され、橋本永祥さんは『高齢者特別賞』受賞。

十月、日本吟道全国吟詠コンクール決勝では長友龍瑤さんが『漢詩奥伝以上の部第四位』入賞、国分寺南洲吟道会（平松龍宝会長指導）の高木里水さんが『漢詩奥伝以下の部第三位』入賞。又、今年度より八〇才以上の方々には『壮心吟士権者賞』が発表され、藤田龍香さんが受賞致しました。多岐にわたったり、また各部門において良い成績を収める事が出来、会員の皆様に誇れる結果となりましたことをご報告申し上げます。また、南洲吟道会は、東京地区内において一〜二位にあたる参加率を誇っております。入賞等されなかつた皆様におかれましても、当会の一員として、催しやコンクール

会報 「敬天愛人」第五十一号

発行日 令和元年十二月一日
編集人 南洲吟道会 広報局局长 佐藤龍廣
発行人 理事長 吉永龍暘・会長 吉永龍奏
発行所 〒一六五〇〇三五 東京都中野区白鷺二一三四一五
公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会
電話・FAX 〇三―三三三三―七〇〇九
ホームページ 南洲吟道会・JP

に参加下さることは、会を代表するものとして大変ありがたく存じております。感謝申し上げます。

後期当会の催しとして、日本吟道学院本部からの指導のもと、二回目となる無料講習会を九月に開催致しました。現実を思いらされる残念な集客となり、もう少し宣伝が出来ればよかつたなあと反省致しております。

しかし、その反面、会員各位の皆様のお力添えの必要性も感じております。本部の置かれて中野区だけでなく当会の各教室におきましても展開して参りたくご協力をお願い申し上げます。会員各位のおひとりおひとりが、【吟詠とはなんぞや】【その吟詠の魅力とはなんぞや】【この教室の良さとはなんぞや】といったように、日頃から問題提起出来るようお過ごし頂きますことを改めてお願い申し上げます。

次年度となる令和二年度、新たな試みにも挑戦し、日本吟道学院南洲吟道会春季吟道講習会を計画致しております。交流と親睦を深めこの道発展に繋げたいという願いを込め、数十名のお客様をお迎えして行う予定です。学院内の他の公認団体からのお客さまも、お客様に他なりません。広い意味におきましては吟詠を学ぶものとして同志です。どうか失礼のなきよう、おもてなしの心をもって、そして、お互いに鍛錬の場となりますようよろしくお願いを致します。より充実した機会となりますよう会員各位全員のご参加を頂きたくご活躍をお願い致します。

今後とも、普及活動に全力で邁進いたします。様々に楽しむことのできる素敵な吟詠を、広めて参りたく、どうぞ宜しくお願ひ致します。寒さに向かいますのでお体、ご自愛ください。

○ 南洲吟道会創立四十五周年記念大会
感謝の集いが次の通り盛大に開催されました。

日時 令和元年五月二十六日(日) 開場午前九時
会場 中野サンプラザ コスモ 十三階 開演午前十時
(一) オープニング
「南洲吟道会創立四十五周年を祝す」

手塚憲祥作
吉永龍陽
神宗流剣詩舞道一同
舞
会長吟詠

(二) 修礼・国歌斉唱

吟道精神斉唱・
物故者への黙禱
開会の言葉

(三) 会員吟詠(第一部

第二部・第六部
第十部・第十一部)

(四) 構成吟 第三部
「良寛を訪ねて」

第八部
「あゝ大西郷」

(五) 式典
(六) 薩摩琵琶

「那須の余市」
第十部・第十一部

第四部
(七) ご招待吟詠

第九部・第十二部
(八) 理事長吟詠

※

最後に会場の全員で
洲神先生のCDの声に
合わせて「敬天愛人」
を吟じました。

まさに、満堂に響き、感動の大合吟でした。
(佐藤龍廣 記)



2019年5月26日(日)

於 中野サンプラ

○ 四十五周年大会を振り返って

南洲吟道会事業局長 湊山龍河

少し振り返ってみます。

平成二十六年二月九日、東京は稀にみる大雪でした。前日から降り始めた雪は、止むこと無く、多くの電車が運行不能になりました。忘れることの出来ない南洲吟道会創立四十周年記念大会の日でした。「人が集まらなくても、兎に角に、開催しましょう」と言うことで、スタートは随分遅れましたが、時間と共に、ご招待の先生方も会員も会場に集まり、感激の中で開催することが出来た。忘れられない大会となりました。そして、次回の四十五周年は絶対に良い季節に・・・決めて、今回の四十五周年の大会が、去る五月二十六日 快晴のもと開催されましたことはご承知の通りです。

会場のサンプラザホテル大広間コスモの後方には、亡き洲神先生の遺影が大会の成功を見守るかに飾られていました。又一方では、この大会を境に、龍陽先生が理事長に、龍奏先生が会長へと引き継がれました。特に、龍奏先生には、南洲吟道会の長としてはもとより、日本吟道学院の理事としても「期待が大きい」ものとなられました。これからは、南洲吟道会の皆さんも、お互いに健康に留意され、若い世代へと徐々に移行しながら、会を盛り上げて行き、私達も五十周年に向かつて頑張ってくださいませ。



後方で静かに皆を見守っていました



龍陽の吟詠と神宗流の舞い



薩摩琵琶鶴場会「那須与市」の演奏



四国松山から駆け付けてくれた
雲瀬収龍さん副会長佐藤龍勝さん
会発足当初の思い出話をされた



花笠音頭を皆で唄いながら踊った

○ 詩吟講習会・体験教室 講師吉永龍奏先生

日時… 二〇一九年(令和元年)九月二十九日

午後十三時〜十五時

場所… 白鷺高齢者会館二階 体験希望者無料

内容… 甲府開府五百年 武田信玄を偲んで

漢詩 頼山陽作 川中島その他

○ 日本吟道全国吟詠コンクール決戦大会 日本吟道名吟大会 (令和を生きる)

日時… 令和元年十月十九日 (土)

場所… タワーホール船堀

出場者… ① 漢詩六段以下の部 高木里砂 (三位入賞)

② 漢詩奥伝以上の部 長友東洋子 (四位入賞)

藤田 幸・茂呂 肇・山田恵美子

○ 壮心大会の吟士権者賞を受賞して

白鷺教場 藤田龍香

超大型台風十九号が到来し、関東地方で大暴れ、この日のために切磋琢磨し、優勝をめざして大会に臨み、心中、日頃培ってきた吟を、全国のお仲間聞いて頂く大会でもあると、私は思います。

今回はそれに伴って、一個賞状が増えました。

八十歳以上の方、地区予選を通過し、本選に参加できる方にと考えられた賞だと思えます。漢詩奥伝以上の部の壮心吟士権者として、令和元年度日本吟道全国吟詠コンクール決戦大会に於いてです。

亡き吉永洲神先生、龍陽先生、龍奏先生と、会の皆様から、何事もマイナス思考の私を、詩吟と共に助けてくださり、家の事情でなかなか練習出来ずにあります私の背中を、そっと押して下さいました。心に、心より感謝申し上げます。

八十一歳と二か月、吟が大好きと言うだけで、現在まで続けてまいりました。決して上手ではありませんが、苦手な処を見つけれられるようになったのも、進歩したのだと思います。

今回は、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

○ 習志野会の橋本永祥さん特別表彰 習志野会 笠木照龍

第五回日本吟道東京地区壮心大会が、九月八日(日)江戸川区民

館ホールにて、開催され、私達習志野会から、八十八歳の橋本永祥さんが、出吟しました。私と萩野進龍さんと二人で応援に行きました。

東京地区の予選なので、二、三十名位の吟者かと思っていたのですが、受付にてプログラムを頂いた時、南洲吟道会から十八名も参加していたのに、驚きました。会は、吉永龍陽先生の進行上の注意があり、プログラムに沿ってスタートしました。

わが教室の橋本さんは、李白の『早に白帝城を発す』を二十八番目に出演し、力を抜き、朗々と吟じられました。結果は、南洲吟道会から内山龍陽さんが選ばれ、他の方々は残念な結果となりました。

がしかし、来年に向けて、橋本さんを含め、習志野教場の仲間、日々精進を重ね、壮心大会に参加させて頂きたいと思つて、いる次第であります。

特別表彰があり、橋本さん始め五名の方が受賞されました。おめでとうございます。この日、台風十五号で千葉県に甚大な被害がありました、早い復興を祈っています。



橋本永祥さん特別表彰を受ける

○ 習志野市民文化祭に参加して

習志野会 吉沢麗龍

令和元年十月五日に、習志野市民文化祭が、谷津公民館で行われ、それぞれに日頃の研鑽の発表に、地元の方々と共に参加し、活動させて頂きました。習志野会では、若さと行動力で少人数ながら、一丸となつて元気に、一吟、一吟、漲る力を発揮し、見学された方々の温かい大きな拍手に、胸が熱くなり、参加出来た事への喜びと人様に聞いて頂ける詩吟の大切さを、改めて感じ取りました。

詩吟を続けて来てよかつたと思える気持ちを大切に、これからも、習志野会の皆さんと共に、頑張れたらと思っております。

また、九月九日の一五号、十月十二日の十九号と続けての台風で、大規模な停電、断水、河川の氾濫等があり、各地域、地区での多大な災害に自然の威力に、なすすべも無く、その恐ろしさに、驚愕致しました。日本の四季折々の美しさが、自慢の一つでしたが、島国の日本は、地震、此度のような台風などで、先が見えなくなりそうな気がいたしますが、

夢と希望を持つて生きて行くことが、吟道の世界に入つて、心豊かに生きて、道を拓くことが、救いと思ひます。



習志野会の出演者5人の皆さん



吉沢麗龍さんの舞と斎藤優龍さんの吟

○ 船橋市中央公民館 文化祭に参加

船橋詩吟同好会 幹事長 曾根龍富

令和元年十一月二日(土)〜三日(日)の二日間、恒例行事の船橋市中央公民館の文化祭は六階大講堂で発表部門が開催されました。船橋教場は船橋詩吟同好会(船橋市社会教育関係団体の登録名称)として、二日目の午後発表部門に参加しました。持ち時間は二十五分間、加藤龍孝先生が作成されたシナリオに基づき、日頃の特訓の成果を披露しました。出吟内容はプログラム順に、次の内容です。

- ① 短歌『ふるさとの』 石川啄木 佐藤裕子
 - ② 漢詩『偶成』(勸学) 朱熹 澤口三夫
 - ③ 漢詩『山行』 杜牧 笹京子
 - ④ 俳句『雀の子』 一茶 中村陽一
 - ⑤ 漢詩『壁に題す』 积月性 曾根富夫
 - ⑥ 構成吟『大漁吟じ込み』渡辺吟神 (合吟) 全員
- 独吟は加藤先生のコンダクターの伴奏・構成吟はCDを使用。

文化祭の発表に向けて、加藤龍孝先生から毎回熱心なご指導を戴きました。リハーサルも何度か繰り返し返して本番に臨みました。

全員、緊張しましたが納得のいく舞台を務めることが出来たと思います。最後に何時も情熱的に、明るく楽しくご指導を頂いている加藤先生には心から厚く感謝申し上げます。

来年の文化祭には、皆で更に練習に磨きをかけて参加したいものと全員決意を新たにしているところです。

本部便り

◎ 新入会員のご紹介

国分寺会 長島勝廣さん (令和元年八月一日入会)
詩吟三田教場 中川晋弥さん (令和元年九月二十九日入会)

(総務局)

◎ 令和元年秋季昇段審査

令和元年九月二十九日(日) 結果報告、(指導局)
昇段審査会が白鷺高齢者会館に於いて肅々と実施され、次の通り審査決定されました。

【秋季昇段者名簿】

初段	黒田町吟	初段	秋山政吟
二段	澤口三吟	二段	亀井則吟
初伝	足立英吟	初伝	新妻眞洲
初伝	牧野小洲	三段	安齊治洲
奥伝	北原義城	師範	木下沃城
皆伝	吉沢強祥		

以上十一名の方が合格です。おめでとう御座います。



伴奏の加藤龍孝先生と5人の船橋会員の皆さん

◎ 令和二年度会員の動向及び会費納入のお願い (経理局)

- ① 令和二年一月三十一日(月)必着で、日本吟道学院総本部へ、南洲吟道会会員の動向と年会費の報告をしなければなりません。
- ② 令和元年十二月末日までに、教場長(会長)は教場内の会員の動向を把握して、南洲吟道会本部へお知らせ下さい。
(中伝以上の方で正会員を希望される方又は退会を希望の方)
特に退会希望の方の連絡がない場合は継続と見做して年会費を、徴収します。なお、年会費は、正会員の方、准会員の方、吟道誌を希望する方等を調べて、夫々報告をお願いします。

編集後記

○ 会報「敬天愛人」第五十一号はホームページ方式では、五回目の発刊です。会報が会員相互の交流を深めることを願い、記事の応募は常時受け付けています。各種行事や大会への参加、各教場の活動状況などを、気軽に応募ください。出来れば写真の添付もお願い致します。

○ 会報のバックナンバーは長い歴史を誇る南洲吟道会の草創期から、常時見ることが出来ます。各種大会の優勝などの記録は貴重な財産です。輝かしい足跡に触れる学びは、日頃の稽古に新たな意欲が湧き元気を貰うことが出来ます。皆様是非、ホームページをご覧ください。

○ 近年、「人生百年時代」が叫ばれ「令和」の新時代は、歴史の大きな転換期です。今こそ、健康増進にも、効果的な「詩吟」に親しみ続けましょう!! (広報局編集部長 曾根龍富 記)

広報局長	佐藤龍廣	記録部長	稲葉誠龍
広報部長	萩野進龍	オブザーバー	手塚憲祥
編集部長	曾根龍富	HP担当	菊地務